

都市再生整備計画(第5回変更)

うきしま
浮島レイクサイド地区

茨城県 いなしき
稲敷市

平成24年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	茨城県	市町村名	稲敷市	地区名	浮島レイクサイド地区	面積	663.1 ha
-------	-----	------	-----	-----	------------	----	----------

計画期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度	交付期間	平成 19 年度 ~ 平成 23 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

- ◆多様な親水活動と水郷文化とのふれあいによるレクリゾート「夢の浮島」の復活◆
 - ①地域活性化の起爆剤としての夢の浮島の中心であった和田公園の魅力アップによる観光・交流空間の形成
 - ②環境教育システムの構築による貴重な自然環境の保全・育成・活用の促進
 - ③安全・安心な生活・周遊環境の提供と水郷文化を活かした都市・農村の交流機会の拡大

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 昭和34年：浮島地区の霞ヶ浦沿岸全域が「水郷筑波国定公園」に指定され、これを契機に和田公園を中心に、自然公園としての整備が進められた。
- 昭和40年：和田公園のキャンプ場やバンガロー等が増改築され、また、土浦・潮来・佐原をはじめ、霞ヶ浦沿岸地域を結ぶ周遊船等が運航するなど、和田公園等の魅力アップが図られ、シーズンには東京方面からの来訪者をはじめ、多くの利用者で賑わい、当時は『夢の浮島』と称されるほどであった。
- 昭和48年：霞ヶ浦清掃作戦が始まり、桜川地区でも多くの地元住民が毎年参加しており、これは現在でも継続されている。
- 昭和49年：霞ヶ浦の水質悪化等により、霞ヶ浦水域での遊泳が禁止され、和田公園等への来訪者が激減した。
- 昭和62年：コジュリンをはじめとする野鳥の生息の場となっている「妙岐の鼻」を水資源開発公団（現：水資源機構）に売却となる。
- 平成5年：和田公園に隣接する雑種地等を利用して「第1回桜川村花まつり（チューリップまつり）」が開催される。
- 平成7年：和田公園にふれあい広場が整備されてからは、「桜川村花まつり」のメイン会場として利用されるようになり、本年度（平成18年5月現在）で第14回を迎えている。現在の「花まつり」は、20万本のチューリップを目当てに、期間中1.5万人の来訪者で賑わっており、この頃から、地元中学生やシルバー人材センター等の清掃活動や植栽管理などの協力を得て運営されている。
- 平成8年：水資源開発機構により、「妙岐の鼻」の野鳥等の観察環境整備として、野鳥観察舎・遊歩道・駐車場・トイレなどの整備が行われ、野鳥愛好家をはじめ、多くの来訪者が来るようになる。
- 平成13年：浮島地区の中央を東西に貫く「県道：新川・江戸崎線」が全線開通し、広域的な道路網の骨格が完成した。この県道の供用開始から間もない頃より、沿線地域に、地元農家による「直売所」が自然発生的に出現するようになり、来訪者と地元農家の交流機会が創出され、平成17年度には、旧桜川村において「直売所浮島」がオープンした。
- 平成15年：「自然公園等整備事業（環境省）」が平成15～17年度の3か年で行われ、キャンプ施設や展望台をはじめ、公園施設の一部リニューアルが行われた。これに合わせて、旧桜川村でも単独事業で照明施設や管理用道路などの整備が進められ、徐々にではあるが来訪者が増加し始めている。
- 平成15年：「桜川子どもの水辺協議会」を組織し、「水辺の楽校（国土交通省）」の計画づくりを進め、これを受けて平成18～23年度の5か年で、和田公園周辺の護岸整備や砂浜復元整備が進められる予定である。
- 平成16年：「県道：新川・江戸崎線」をふれあい道路と位置づけ、デザインされた案内サインの設置とともに、以前からの地元老人クラブの花壇植栽活動を受けて、地元老人クラブ等の協力により沿線全体の所々に花壇を設け景観向上が図られている。

課題

- 霞ヶ浦の水辺空間を活かし、潜在的な魅力を十分に発揮できる総合的なリニューアルと資源のネットワーク化を図り、水辺環境を活かした魅力ある体験ができる多様な活動メニューを提供する必要がある。
- 浮島地区全体の周遊化や活動の拠点となる和田公園等へのアクセス性を向上させるため、道路網やサインなどを整備する必要がある。
- 貴重な霞ヶ浦の水辺環境の保全・活用を推進するため、「水辺の楽校」に基づいた環境教育の場とその仕組み（システム）づくりを推進していく必要がある。
- 地域住民が今後とも住みたいと思える生活環境等の確保を図るとともに、生涯学習的な視点での生きがいややりがいをはじめ、新たな地域活力となる活性化メニューを創出していく必要がある。
- 既存の居住地への安全・安心対策として、排水対策の道路環境整備や、防災拠点となる施設の耐震対策への取り組みが必要である。
- 地域住民と来訪者との交流をはじめとした都市・農村交流の仕組みづくりを図っていく必要がある。

将来ビジョン（中長期）

- 第1次稲敷市総合計画（平成19年度～平成28年度）
土地利用構想においては、浮島地区を中心に「自然環境体験学習ゾーン」と位置づけられている。また、和田公園及び妙岐の鼻は「公園・緑地」や「緑・親水拠点」と位置づけされており、霞ヶ浦等が育んだ水郷地域らしい水辺環境の活用が示されている。基本計画の重点プロジェクトにおいては、地域活性化プロジェクトの一環として、「重点的・戦略的に整備を行う拠点」として位置づけられており、霞ヶ浦を活かした観光・交流拠点の形成を図るとしている。
- 稲敷市まちづくり計画（平成17年度～平成26年度）
土地利用構想においては、市東部の霞ヶ浦沿岸地域を「水の郷ゾーン」と位置づけ、魅力ある交流空間づくりの推進を図るとしている。この中でも特に、和田公園及び妙岐の鼻は「水辺拠点」と位置づけられており、「憩いやレクリエーションなどの場」として

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
霞ヶ浦等を活用した観光・交流施策への満足度	%	市民を対象としたアンケート調査による満足度。	霞ヶ浦等を活用した観光・交流人口の拡大による和田公園を中心とした観光・交流施策としての指標。	41%	平成17年度	50%	平成23年度
「水辺の楽校」への参加者数	人/年	「水辺の楽校」のイベント等への年間参加者数。	「水辺の楽校」による自然環境等の保全・活用に対する、子ども達をはじめとする市民等の環境学習の機会拡大としての指標。	120人/年	平成18年度	300人/年	平成23年度
浮島レイクサイド地区への来訪者数	人/年	浮島レイクサイド地区への年間来訪者数。	地域住民と来訪者との交流機会（都市・農村の交流機会）の拡大による地域活性化としての指標。	55,292人/年	平成17年度	70,000人/年	平成23年度
地域住民の災害等対策の満足度	%	地域住民を対象としたアンケート調査による満足度。	地域住民における生活環境と来訪者等における観光・交流の周遊環境の安全・安心な環境づくりとしての指標。	43.7%	平成17年度	50%	平成23年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>「地域活性化の起爆剤としての夢の浮島の中心であった和田公園の魅力アップによる観光・交流空間の形成」を図るための整備方針</p> <p>①既存の公園施設のリニューアルと、公園や霞ヶ浦などを活かした新たな活動メニューを提供できる公園施設を整備するとともに、砂浜復元等による水辺へのアクセシビリティの向上、生活道路等で分断されている公園空間の一体感の創出など、かつての「夢の浮島」と称されていた賑わいある和田公園の魅力向上を図り、観光・交流の中心エリアを形成する。</p> <p>②市内外の来訪者への当該地区等のPRをはじめ、観光スポットや交流イベント、各種活動(体験)メニュー等の情報を提供する。</p> <p>③水郷ブランドを有する佐原や潮来などとの連携・協力により、湖上交通による観光ネットワーク(観光ルート)を構築し、舟運復活など水郷ならではの活動メニューの提供を検討する。</p> <p>④和田公園へのアクセス道路や霞ヶ浦・筑波山をはじめとする地域の景観資源を眺望できる湖岸道路の整備など、和田公園及び当該地区等全体を周遊できる魅力ある道路体系の構築とともに、周遊に当たってのわかりやすさを提供できる案内板等の設置を行い、快適でレクリゾートにふさわしい道路・周遊環境の形成を図る。</p>	<p>①和田公園改修事業(地域創造支援事業:提案事業) 砂浜復元等事業(国土交通省:関連事業) 広場機能強化事業(地域生活基盤施設(広場):基幹事業) 歴史的資源環境整備事業(地域創造支援事業:提案事業)</p> <p>③(仮)舟運復活等検討調査事業(事業活用調査:提案事業)</p> <p>③市道(桜)I-2・I-14号線改良事業(道路:基幹事業) (仮)和田公園アクセス道整備事業(道路:基幹事業) 市道(桜)3430号線改良事業(道路:基幹事業) 市道(桜)3432号線整備事業(道路:基幹事業) 霞ヶ浦周遊道路整備事業(国土交通省:関連事業)</p>
<p>「環境教育システムの構築による貴重な自然環境の保全・育成・活用の促進」を図るための整備方針</p> <p>①市内の小・中学校を中心に、霞ヶ浦などの水辺環境をフィールドとした環境教育を推進するとともに、更なる活動として情報発信や交流活動などの環境教育活動が展開できるような「水辺の楽校」の活動を推進する仕組みづくりを構築する。</p>	<p>①環境保全活動促進事業(地域創造支援事業:提案事業)</p>
<p>「安全・安心な生活・周遊環境の提供と水郷文化を活かした都市・農村の交流機会の拡大」を図るための整備方針</p> <p>①当該地区内の避難所として位置付けられる浮島小学校の安全性の確認、または今後の耐震対策等を推進するための耐震診断を行うとともに、地域住民の生活と来訪者の周遊に供する道路環境の改善を図り、安全・安心な生活・周遊の道路環境の整備を推進する。</p>	<p>①和田公園改修事業(地域創造支援事業:提案事業) 市道(桜)I-2・3317号線改良事業(道路:基幹事業) 市道(桜)4209号線改良事業(道路:基幹事業) 広場機能強化事業(地域生活基盤施設(広場):基幹事業) 和田公園周辺地域内水排除事業(地域生活基盤施設(地域防災施設):基幹事業)</p>
<p>その他</p> <p>○湖上観光ネットワークの構築について (仮)舟運復活等検討調査事業として、佐原や潮来等との湖上観光ネットワークを構築するために、広域行政による協力・連携の体制づくりを積極的に推進するとともに、流動的な来訪者のニーズへの対応や更なる観光・交流メニューを創出するための活動・展開を目指す。</p>	

都市再生整備計画の区域

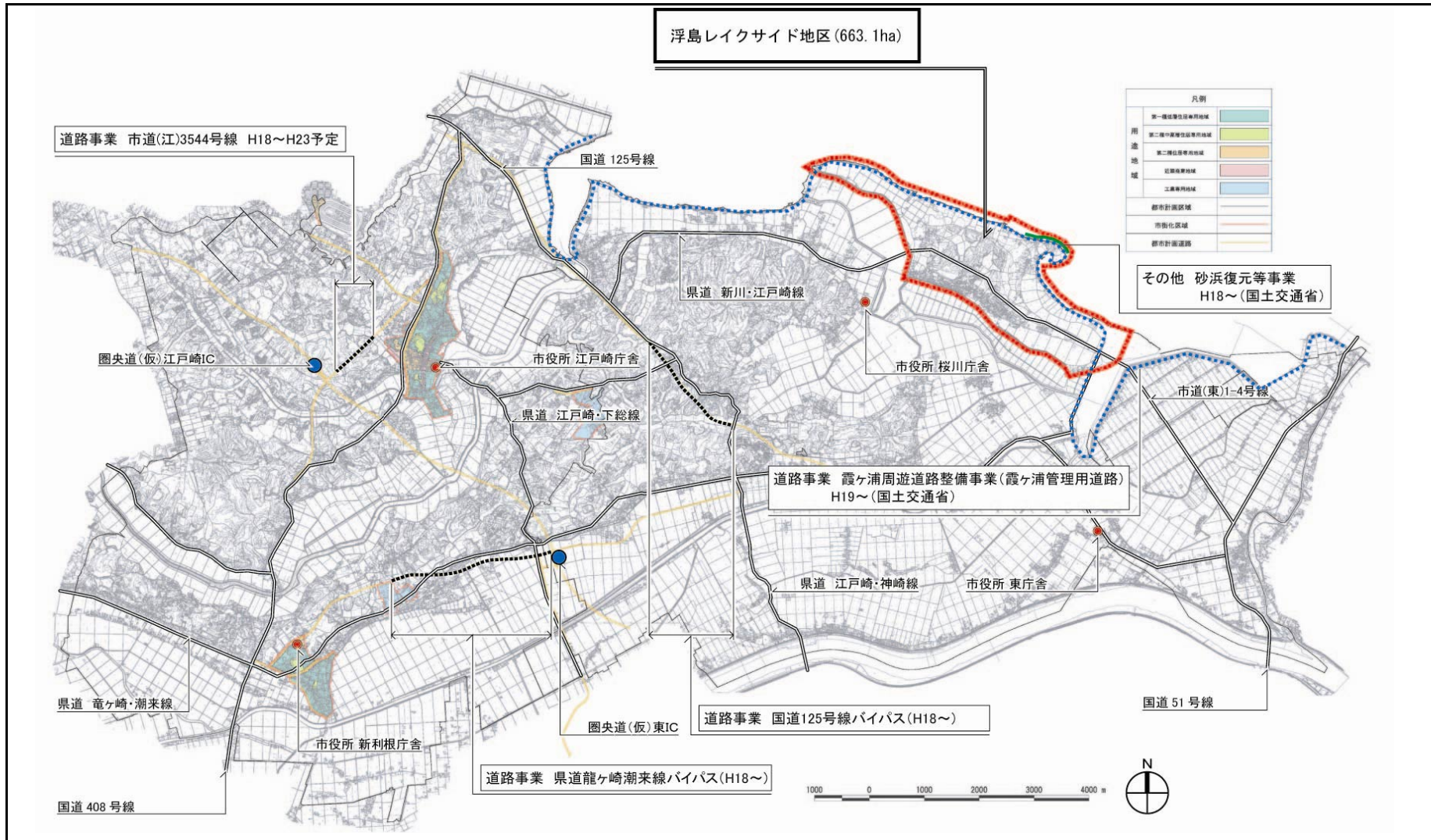
浮島レイクサイド地区(茨城県稲敷市)

面積

663.1 ha

区域

稲敷市浮島の一部



浮島レイクサイド地区(茨城県稲敷市) 整備方針概要図

目標	◆多様な親水活動と水郷文化とのふれあいによるレイクリゾート「夢の浮島」の復活◆	代表的な指標	霞ヶ浦等を活用した観光・交流施策への満足度 (%)	41 (17 年度) →	50 (23 年度)
	①地域活性化の起爆剤としての夢の浮島の中心であった和田公園の魅力アップによる観光・交流空間の形成		「水辺の楽校」への参加者数 (人/年)	120 (18 年度) →	300 (23 年度)
	②環境教育システムの構築による貴重な自然環境の保全・育成・活用の促進		浮島レイクサイド地区への訪問者 (人/年)	55,292 (17 年度) →	70,000 (24 年度)
	③安全・安心な生活・周遊環境の提供と水郷文化を活かした都市・農村の交流機会の拡大		地域住民の災害等対策の満足度 (%)	43.7 (17 年度) →	50 (23 年度)

